

政治の鏡

木更津市立岩根中学校 三年 小野 詩歩

ニュースを見ていると国会の様子が映像として流れていました。その中で首相の答弁に対してやじを飛ばす様子が目にとまりました。なぜこれほどまでに他人の意見をそしる必要があるのでしょうか。

国会が開かれるたびごとに当たり前のように議員たちはたくさんのやじを飛ばしています。日本が進む方向を決める国会でこのようにやじや人をそしることを容認して、進むべき針路を決めて良いのでしょうか。何回かこの光景を見たとき正直「情けないなあ、品がないなあ。」と思いました。また、この重要な役割を果たす国会でこのことがずっと日本で通用していたこと、こんなことに大事な時間をついやして、その議員のために、税金が支払われていることに腹立たしささえ感じました。人の話を聞かず、ただ自分の主張ばかりをすることはとても無意味で、今、問題になっている「誹謗中傷」に似ている気がします。相手の気持ちを考えず、卑劣な言葉を発って人を傷つけています。

学校内でも他人の意見に耳を傾けず、相手のことを考えず心ない一言で傷つけてしまうことが見られます。今、私は委員長として活動しています。その中で体育祭前の準備の手順を先生方と確認し、その内容を生徒の皆さんに伝えたとき、これと同じようなことが起こりました。「えーやだな。」や「準備をする時間が早いよ。」や、いやそうに頭を抱えている人もいました。その時、「なんで私が批判されなければならないのだろう。なんで伝えただけなのに文句を言われなければならないのだろう」と、悔しくて惨めな気持ちでいっぱいになりました。そして、「こんなに批判されて文句を言われるんだったら委員長にならなければよかった。」とまで思い、イライラしたり悲しくなったりして、泣きそうになりました。また、人の上に立って、物事を指示するということは理不尽な批判を受けなければならない場合があることもこの時知りました。その時、先生が「何か言いたいことがあるならば、手をあげて言いなさい。」と、話しました。「しーん」と静かになってだれも手を挙げる人がいませんでした。その光景を見たとき悔しいようなむなしいような何とも言えない気持ちになりました。よりよい案を出すのならありがたいのですが、文句や批判しかせず、都合が悪くなると黙って逃げるのは、とてもずるいと思います。

以前、私が読んだ本で『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』という本がありました。その本の中にとっても印象に残った言葉があります。

「人間って、よってたかって人をいじめるのが好きだからね」

「僕は、人間は人をいじめるのが好きなんじゃないと思う。……罰するのが好きなんだ。」

国会のやじによる誹謗や、集団の中での無責任な中傷は、この「人を罰するのが好き」という人間の最も悪い性質が出てしまっている状況だと思います。この状況って自分のみが正しいとする戦時中と同じではないでしょうか。

穏やかに人の意見を認めながら、より良い改善案を出すといった建設的な話し合いはできないのでしょうか。

国会が人をそしり、落とし入れることがまかり通る場であるならば、五年後、十年後の将来を決める場としてふさわしいとは思いません。この国の未来を切り開く場としてもっと秩序のある品格を持ったレベルの高い場を作ってほしいと思います。その国の政治は、その国の人々の鏡でもあります。人々の鏡ならば戦後の反省と共に平和を誓った国民として国会のやじは容認してはいけません。少なくとも私たち中学生は他人をそしり、誹謗することを絶対容認していません。

もし、日本の未来の国会が、やじがなく、お互いの案を高め合おうとする洗練された話し合いの場ならば、選挙の投票率も上がるだろうし、政治について真剣に考える中学生も増えると思います。そんな未来のためにもまずは、やじを飛ばすことからやめてみませんか。